

利益をたたき出すトレードルールの作り方

3. ボリンジャーバンドを使う

ここでは、ボリンジャーバンドを使う事で、第1章で説明した基本戦略に基づいてトレードを行う方法を考えることにします。

3-1. ボリンジャーバンドとは何か

ボリンジャーバンドとは、中心線となる移動平均線の上下に、その時点の相場の価格変動率に応じた市場参加者の建値の分布を示すバンドを描いたものです。このバンドは、移動平均値に以下のような標準偏差値を増減したものです。

- ◆ $\pm 1\sigma = \text{移動平均値} \pm \text{標準偏差値} \times 1$
- ◆ $\pm 2\sigma = \text{移動平均値} \pm \text{標準偏差値} \times 2$
- ◆ $\pm 3\sigma = \text{移動平均値} \pm \text{標準偏差値} \times 3$

3-2. バンド幅は相場変動率を表す

相場は、いったん動き出すと、その動きは加速度的に拡大します。標準偏差は、加速度を加味して、市場参加者の建値データのばらつき度合いを表すもので、価格変動率が高い時は、バンド幅が拡大し、同変動率が低い時は、バンド幅が収縮します。

従って、バンドが拡大傾向にある時は、トレンドが発生していることが分かります。また、バンドが収縮傾向にある時は、トレンドが終息して調整局面入りしていることが分かります。更に、バンドが収縮したままの時は、保合いになっていることが分かります。

3-3. 各バンドの価格帯は市場参加者の分布を表す

ボリンジャーバンドが示すもう一つの重要な情報は、各 σ 間の市場参加者の比率です。下表は、各 σ ラインで区分される価格帯別での市場参加者の比率を示しています。

#	各 σ 間	市場参加者の分布比率	+3 σ からの累計比率	-3 σ からの累計比率
A	+3 σ 以上	0.135%	0.135%	100%
B	+2 σ ~+3 σ	2.145%	2.280%	99.865%
C	+1 σ ~+2 σ	13.59%	15.87%	97.72%
D	中心線~+1 σ	34.13%	50%	84.13%
E	-1 σ ~中心線	34.13%	84.13%	50%
F	-2 σ ~-1 σ	13.59%	97.72%	15.87%
G	-3 σ ~-2 σ	2.145%	99.865%	2.280%
H	-3 σ 以下	0.135%	100%	0.135%

利益をたたき出すトレードルールの作り方

例えば、中心線が25日移動平均線なら、過去25日間でポジションを取った市場参加者のうち、全体の34.13%の参加者がEの価格帯(-1σ~中心線)でポジションを取った事を意味します。また、H(-3σ以下)~D(+1σ)までの価格帯でポジションを取った参加者の比率は、全体の84.13%であることを意味します。更に、H(-3σ以下)~C(+2σ)までの価格帯でポジションを取った参加者の比率は、全体の97.72%であることを意味します。

補足：これらの比率はデータのばらつきが正規分布である事を前提に数学的に計算されたもので、実際の比率とは異なります。また、「市場参加者数」は、トレーダーの頭数ではなく、実際には建玉数です。

3-4. 実勢価格の位置が意味する事

もし、現在の実勢価格が+2σより上に位置しているなら、過去25日間にポジションを取った売り方の少なくとも97.72%は含み損を抱えていることを意味し、同時に、過去25日間にポジションを取った買い方の少なくとも97.72%は含み益を抱えていることを意味します。

更にいえば、9割以上の買い方は含み益を持っており、資金的に建玉を増やす余力がある事になります。逆に、9割以上の売り方は含み損を抱えており、一刻も早く自分の持ち玉を買い戻して、資金を回収する必要に迫られている状況です。

同様に、実勢価格が-2σより下に位置しているなら、9割以上の売り方は含み益を抱えており、9割以上の買い方は含み損を抱えているため、買い方は、一刻も早く自分の持ち玉を売り払って、資金を回収する必要に迫られていると言う事になります。

3-5. 相場の値動きが加速する理由

以上のように、売り方にしろ、買い方にしろ、その9割以上の市場参加者が含み損を抱えている状況では、どちらか一方が圧勝し、もう一方がぼろ負けになるわけです。その分岐点は、実勢価格が+1σや+2σを上回る時、あるいは-1σや-2σを下回る時です。

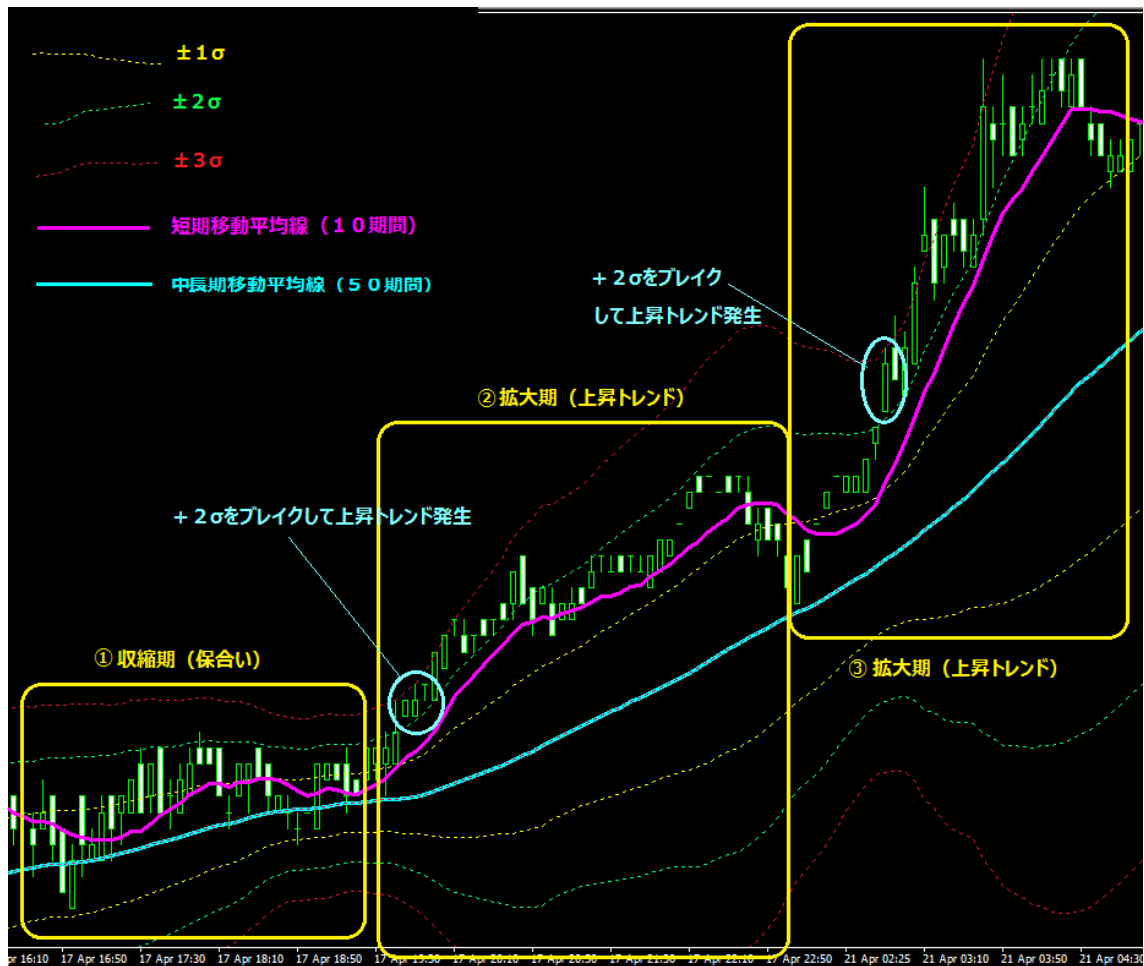
更に、実際に8~9割以上の負け組が損切に動くとうなるかを考えれば、相場の変動率が加速度的に高くなるのが簡単にわかります。

もし、実勢価格が+1σや+2σをブレイクして、**8~9割の売り方が損切に動けば、相場には大量の買い注文があふれかえる**ことになります。一方、**益々含み益が膨れ上がった買い方は、買い増しに動くことが可能**になります。このような状況になると、**売りは買い方の食い売りのみ**になり、買い優勢の状況が続きます。従って、相場は加速度的に上昇し、ボリンジャーバンドが拡大する事になります。加速する上昇トレンドの発生です。

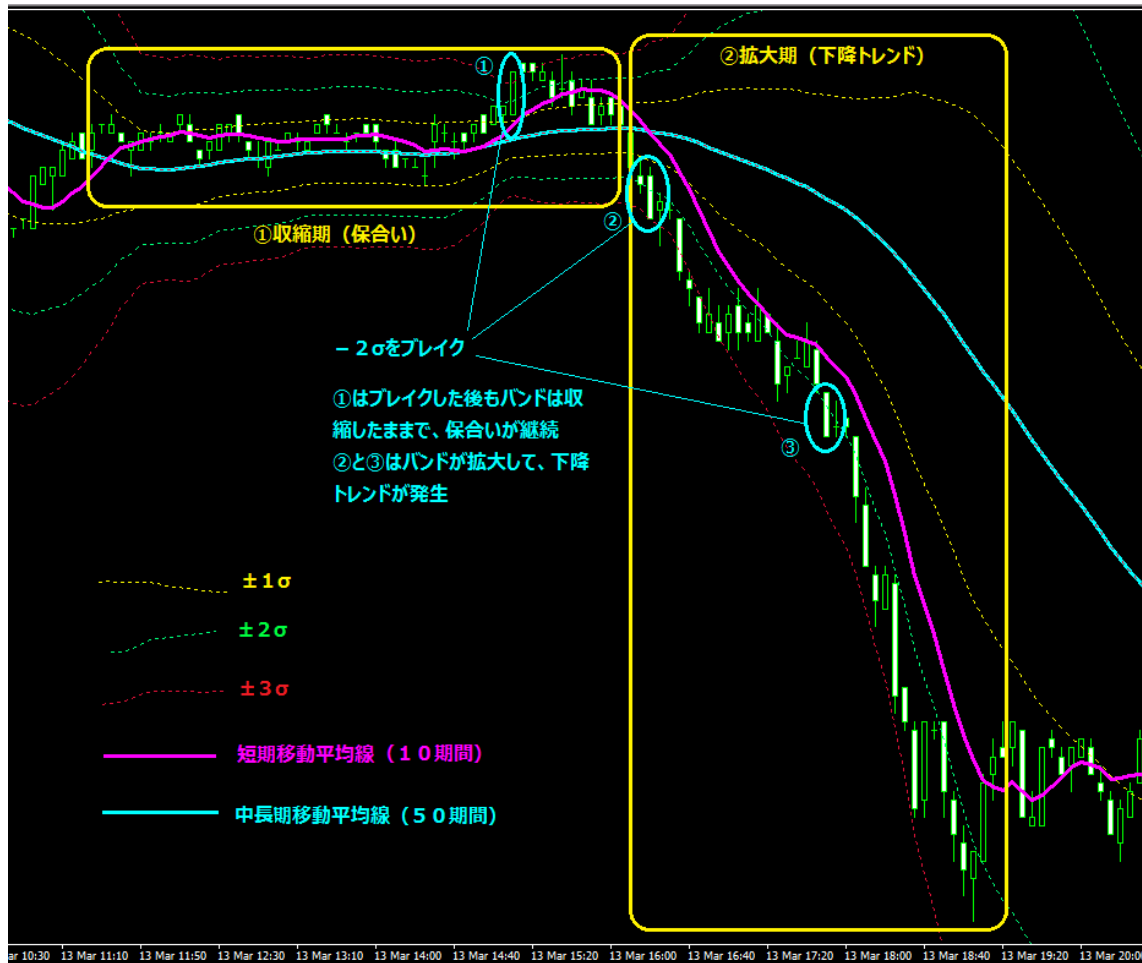
利益をたたき出すトレードルールの作り方

同様に、実勢価格が -1σ や -2σ をブレイクして、8~9割の買い方が損切に動けば、相場には大量の売り注文があふれかえることとなります。一方、益々含み益が膨れ上がった売り方は、売り増しに動くことが可能になります。このような状況になると、買いは売り方の利食いの買いのみになり、売り優勢の状況が続きます。従って、相場は加速度的に下降し、ボリンジャーバンドが拡大する事となります。加速する下降トレンドの発生です。

なお、上記のようにボリンジャーバンドが拡大を始めて、 ± 1 か $\pm 2\sigma$ を伝ってトレンドが発生する状態を「バンドウォーク」と呼びます。また、トレンドが終了してバンドが収縮し、相場の局面が保合いへ向かう場外を「スキーズ」と呼びます。



利益をたたき出すトレードルール の作り方



3-6. 相場の局面と各σラインの関係

+1σや+2σをブレイクしてボリンジャーバンドが拡大している期間の値動きを見ると、**+1σや+2σを支持線にして上昇が続いていることが分かります**。従って、このような上昇局面においては、**支持線となっている各σラインを押し目買いのポイントとして利用することが可能です**、

同様に、-1σや-2σをブレイクしてボリンジャーバンドが拡大している期間の値動きを見ると、**-1σや-2σを抵抗線にして下降が続いていることが分かります**。従って、このような下降局面においては、**抵抗線となっている各σラインを戻り売りのポイントとして利用することが可能です**、

一方、**上昇トレンドが終息すると、それまでの上昇を支えていた各σラインを割り込んでいきます**。同様に、**下降トレンドが終息すると、それまでの下降を支えていた各σラインを上回ってきます**。従って、これらの動きが見られれば、**トレンドが終息し、短期的な調整局面入り**とな

利益をたたき出すトレードルールの作り方

る可能性が高いことが分かります。

3-7. ボリンジャーバンドを使ったトレード方法

以上より、トレードの仕掛け方は次のようになります。

《順張り買いの仕掛け方》

- ① 実勢価格が+1σもしくは+2σをブレイク
- ② ボリンジャーバンドが拡大
- ③ 直近高値をブレイクしたら買い

《押し目買いの仕掛け方①》

- ① 実勢価格が+1σを下回らず上昇中
- ② ボリンジャーバンドが拡大中
- ③ 実勢価格が+1σ～中心線付近まで押した時点で買い

《押し目買いの仕掛け方②》

- ① 実勢価格が+2σを下回らず上昇中
- ② ボリンジャーバンドが拡大中
- ③ 実勢価格が+2σ～1σ付近まで押した時点で買い

《順張り売りの仕掛け方》

- ① 実勢価格が-1σもしくは-2σをブレイク
- ② ボリンジャーバンドが拡大
- ③ 直近安値をブレイクしたら売り

《戻り売りの仕掛け方①》

- ① 実勢価格が-1σを上回らず下降中
- ② ボリンジャーバンドが拡大中
- ③ 実勢価格が-1σ～中心線付近まで戻した時点で売り

《戻り売りの仕掛け方②》

- ① 実勢価格が-2σを上回らず下降中
- ② ボリンジャーバンドが拡大中
- ③ 実勢価格が-2σ～-1σ付近まで戻した時点で売り

利益をたたき出すトレードルールの作り方

《保合いでの逆張りの仕掛け方》

- ① 実勢価格が±2~3σ付近に到達
- ② ボリンジャーバンドが拡大せず横ばい収縮のまま
- ③ それまでの動きと逆方向に仕掛ける